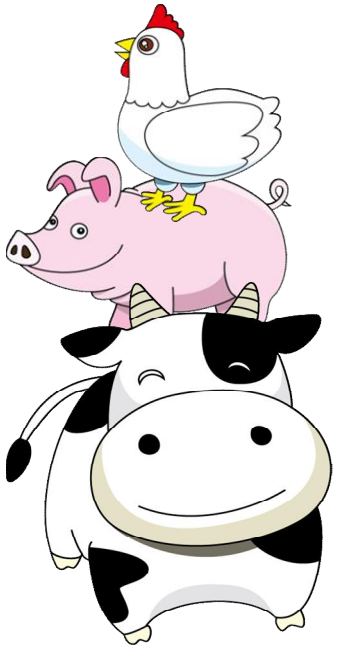
北陸地域の畜産

がんばれ北陸！



令和６年３月

北陸農政局生産部畜産課

～　目次　～

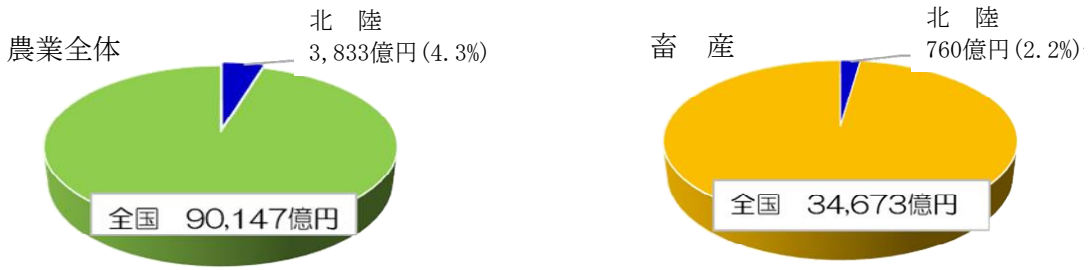
Ⅰ　北陸地域における畜産の位置・・・１
Ⅱ　乳用牛・・・２
Ⅲ　肉用牛・・・５
Ⅳ　豚・・・・・８
Ⅴ　採卵鶏・・・10
Ⅵ　ブロイラー・11
Ⅶ　飼料作物・・12
Ⅷ　畜産環境問題・・・15

Ⅰ　北陸地域における畜産の概要

１　農業産出額に占める北陸の割合

全国の農業産出額に占める北陸のシェアは、農業全体（９兆147億円）では4.3％（3,833億円）、畜産部門（3兆4,673億円）では2.2％（760億円）である。

◎農業産出額に占める北陸の割合（令和４年）



資料：農林水産省「令和４年農業産出額」

２　農業産出額の部門別構成割合

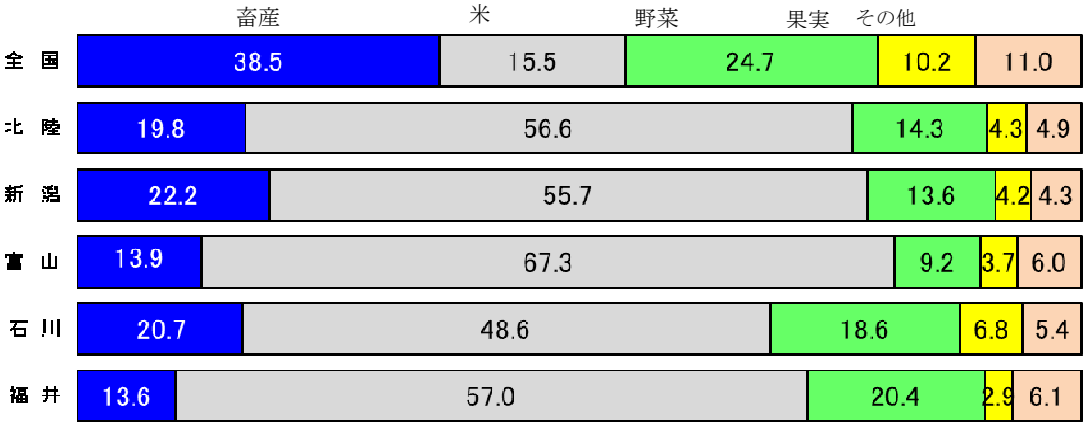
農業産出額に占める畜産部門のシェアは、全国では38.5％と最も高いが、北陸地域では19.8％と米に次ぐ部門となっている。

北陸地域の農業産出額は、3,833億円で、その内61.8％（2,369億円）を新潟県が占めている。

北陸の農業産出額のうち畜産部門は760億円で、その内新潟県が525億円と69.0％を占めており、次いで石川県が100円、富山県が79億円、福井県が56億円となっている。

◎農業産出額の部門別構成割合（令和４年）

（単位：％）



３　北陸の畜種別畜産産出額

北陸における畜産部門の畜種別産出額は、乳用牛が99億円（13％（構成割合。以下同）、うち生乳が94億円）、肉用牛が82億円（11％）、豚が164億円（22％）、鶏が414億円（54％、うち鶏卵が330億円）となっている。

◎北陸の畜種別畜産粗生産額（令和４年）　（単位：億円）

乳用牛	99	肉用牛		豚		鶏	414
	生乳　94		82		164		鶏卵　330

資料：農林水産省「令和４年農業産出額」

注：生乳、鶏卵は、それぞれ乳用牛、鶏の内数

Ⅱ　乳用牛

１　乳用牛飼養戸数

北陸の乳用牛飼養戸数は、全国と同様に減少傾向で推移しており、令和５年は前年比6.3%減の237戸となった。全国に占めるシェアは1.9%である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約60.3%を占めている。

◎乳用牛飼養戸数　（単位：戸、%）

	平成２０年	令和２年	３年	４年	５年	戸数シェア
全　国	24,400（　96.1）	14,400（ 59.0 ）	13,900（　96.5）	13,300（　95.7）	12,600（　94.7）	100
都府県	16,300（　95.4）	8,520（ 52.3 ）	8,150（　95.7）	7,740（　95.0）	7,240（　93.5）	57
北　陸	544（　96.3）	284（ 52.2 ）	266（　93.7）	253（　95.1）	237（　93.7）	1.9［100.0］
新　潟	348（　98.0）	177（ 50.9 ）	165（　93.2）	155（　93.9）	143（　92.3）	［60.3］
富　山	73（　97.3）	38（ 52.1 ）	35（　92.1）	34（　97.1）	32（　94.1）	［13.5］
石　川	79（　89.8）	47（ 59.5 ）	45（　95.7）	42（　93.3）	40（　95.2）	［16.9］
福　井	44（　93.6）	22（ 50.0 ）	21（　95.5）	22（ 104.8 ）	22（ 100.0 ）	［9.3］

資料：農林水産省「畜産統計」（令和5年2月1日現在：以下同）
注１：（　）内は対前年比。令和２年は対平成20年
注２：［　］内は北陸管内に占めるシェア

２　乳用牛飼養頭数

北陸の乳用牛飼養頭数は、全国と同様に減少傾向で推移しており、令和５年は前年比3.3%減の１万1,800頭となった。全国に占めるシェアは0.9%である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約47%を占めているが、１戸当たりの飼養頭数は石川県が約76頭と最も多く、都府県の平均を上回っている。

◎乳用牛飼養頭数　（単位：頭、%）

	平成２０年	令和２年	３年	４年	５年	頭数シェア	頭／戸
全　国	1,533,000（　96.3）	1,352,000（ 88.2 ）	1,356,000（ 100.3 ）	1,371,000（ 101.1 ）	1,356,000（　98.9）	100	107.6
都府県	713,600（　94.4）	531,400（ 74.5 ）	526,000（　99.0）	525,100（　99.8）	513,000（　97.7）	38	70.9
北　陸	20,400（　94.3）	12,400（ 60.8 ）	12,240（　98.7）	12,200（　99.7）	11,800（　96.7）	0.9［100.0］	49.8
新　潟	11,100（　97.4）	6,220（ 56.0 ）	6,040（　97.1）	5,860（　97.0）	5,500（　93.9）	［46.6］	38.5
富　山	2,890（　92.6）	1,940（ 67.1 ）	2,060（ 106.2 ）	2,180（ 105.8 ）	2,140（　98.2）	［18.1］	66.9
石　川	4,660（　89.3）	3,180（ 68.2 ）	3,090（　97.2）	3,100（ 100.3 ）	3,050（　98.4）	［25.8］	76.3
福　井	1,740（　92.1）	1,020（ 58.6 ）	1,050（ 102.9 ）	1,060（ 101.0 ）	1,070（ 100.9 ）	［9.1］	48.6

資料：農林水産省「畜産統計」
注１：（　）内は対前年比。令和２年は対平成20年
注２：［　］内は北陸管内に占めるシェア

３　搾乳牛飼養頭数

北陸の搾乳牛飼養頭数は、全国と同様に減少傾向で推移しており、令和５年は前年比4.2%減の7,380頭となった。全国に占めるシェアは１%である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約48%を占めているが、１戸当たりの飼養頭数は石川県が48頭と最も多く、都府県の平均を上回っている。

◎搾乳牛飼養頭数　（単位：頭、%）

	平成２０年	令和２年	３年	４年	５年	頭数シェア	頭／戸
全　国	861,500（　98.9）	716,000（ 83.1 ）	726,000（ 101.4 ）	736,500（ 101.4 ）	714,500（　97.0）	100	56.7
都府県	450,800（　96.4）	325,000（ 72.1 ）	325,400（ 100.1 ）	326,800（ 100.4 ）	314,500（　96.2）	44	43.4
北　陸	13,300（　95.6）	7,760（ 58.3 ）	7,630（　98.3）	7,700（ 100.9 ）	7,380（　95.8）	1.0［100.0］	31.1
新　潟	7,430（　95.3）	4,010（ 54.0 ）	3,950（　98.5）	3,820（　96.7）	3,540（　92.7）	［48.0］	24.8
富　山	1,980（ 104.2 ）	1,190（ 60.1 ）	1,210（ 101.7 ）	1,390（ 114.9 ）	1,340（　96.4）	［18.2］	41.9
石　川	2,790（　90.3）	1,950（ 69.9 ）	1,850（　94.9）	1,870（ 101.1 ）	1,920（ 102.7 ）	［26.0］	48.0
福　井	1,070（　98.2）	600（ 56.1 ）	610（ 101.7 ）	620（ 101.6 ）	590（　95.2）	［8.0］	26.8

資料：農林水産省「畜産統計」
注１：（　）内は対前年比。令和２年は対平成20年
注２：［　］内は北陸管内に占めるシェア

４　生乳の生産・流通状況

令和４年の生乳生産量は、全国で前年比 0.3%増加し、北陸では1.1%減の約７万５千ｔとなった。うち、新潟県が約52%を占めている。

北陸の生乳処理量は、約９万１千ｔで生産量を約１万６千ｔ上回っている。

なお、石川県については、令和元年9月に乳業工場が1カ所廃止されている。福井県については、平成25年に乳業工場の再編があったため、県外への移出量が増加するとともに県内の処理量が大きく減少した。

◎生乳の生産・流通状況　（単位：ｔ、%）

県名		生産量	移入量			移出量			処理量
		a	b	管内	管外	c	管内	管外	a＋b－c
全　国	H20	7,982,030 (99.7)							
	H30	7,289,227 (91.3)							
	R2	7,438,218 (101.7)							
	R3	7,591,496 (102.1)							
	R4	7,617,473 (100.3)							
都府県	H20	4,076,745 (96.8)	381,435 (104.9)			2,083 (62.3)			4,456,097 (98.7)
	H30	3,324,034 (81.5)	489,267 (128.3)			0 (0.0)			3,813,301 (85.6)
	R2	3,284,504 (100.6)	532,824 (100.6)			0 (－)			3,817,328 (100.6)
	R3	3,326,458 (101.3)	1,768,057 (331.8)			1,278,478 (－)			3,816,037 (100.0)
	R4	3,308,198 (99.5)	485,532 (27.5)			0 (－)			3,793,730 (99.4)
北陸計	H20	122,637 (95.4)	20,499 (108.5)		20,499	21,340 (88.6)		21,340	121,796 (98.7)
	H30	79,301 (64.7)	32,971 (160.8)		24,253	14,615 (68.5)		5,897	97,657 (80.2)
	R2	74,958 (99.5)	28,302 (91.8)		25,713	15,530 (115.2)		12,941	87,730 (94.6)
	R3	75,345 (100.5)	30,786 (108.8)		27,927	15,173 (97.7)		12,314	90,958 (103.7)
	R4	74,553 (98.9)	32,408 (105.3)		29,330	16,447 (108.4)		13,369	90,514 (99.5)
新潟県	H20	68,975 (95.3)	4,573 (108.3)	218	4,355	25,392 (101.1)	5,315	20,077	48,156 (106.9)
	H30	42,839 (62.1)	11,243 (245.9)	22	11,221	7,296 (28.7)	4,483	2,813	46,786 (97.2)
	R2	40,213 (99.7)	18,822 (120.7)	154	18,668	7,922 (118.4)	895	7,027	51,113 (103.8)
	R3	39,551 (98.4)	19,859 (105.5)	15	19,844	6,789 (85.7)	393	6,396	52,621 (103.0)
	R4	38,769 (98.0)	22,037 (111.0)	0	22,037	7,161 (105.5)	665	6,496	53,645 (101.9)
富山県	H20	17,423 (100.1)	382 (37.2)	200	182	1,423 (114.5)	1,141	282	16,382 (95.3)
	H30	11,597 (66.6)	0 (－)	0	0	1,882 (132.3)	1,091	791	9,715 (59.3)
	R2	11,177 (102.6)	0 (－)	0	0	1,997 (143.9)	700	1,297	9,180 (96.5)
	R3	12,121 (108.4)	0 (－)	0	0	2,593 (129.8)	1,437	1,156	9,528 (103.8)
	R4	12,547 (103.5)	0 (－)	0	0	3,404 (131.3)	1,418	1,986	9,143 (96.0)
石川県	H20	26,638 (93.5)	17,989 (127.7)	8,577	9,412	686 (63.0)	10	676	43,941 (105.9)
	H30	19,406 (72.9)	21,728 (120.8)	8,696	13,032	62 (9.0)	11	51	41,072 (93.5)
	R2	18,227 (97.4)	9,480 (62.2)	2,435	7,045	330 (464.8)	22	308	27,377 (80.8)
	R3	17,907 (98.2)	10,927 (115.3)	2,844	8,083	85 (25.8)	0	85	28,749 (105.0)
	R4	17,600 (98.3)	10,371 (94.9)	3,078	7,293	303 (356.5)	0	303	27,668 (96.2)
福井県	H20	9,601 (93.4)	6,914 (85.9)	364	6,550	3,198 (62.5)	2,893	305	13,317 (100.8)
	H30	5,459 (56.9)	0 (－)	0	0	5,375 (168.1)	3,133	2,242	84 (0.6)
	R2	5,341 (99.0)	0 (－)	0	0	5,281 (99.1)	972	4,309	60 (89.6)
	R3	5,766 (108.0)	0 (－)	0	0	5,706 (108.0)	1,029	4,677	60 (100.0)
	R4	5,637 (97.8)	0 (－)	0	0	5,579 (97.8)	995	4,584	58 (96.7)

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」（令和5年3月31日公表：以下同）
注１：（　）内は対前年比。H30年は対H20年比
注２：H28以降、富山県、福井県の都道府県別移入量が非公表となったため
　　両県への移入量は0として、各県の移出量の管内・管外の内訳を推計。

５　生乳の用途別処理量

北陸の生乳仕向け量を用途別に見ると、飲用牛乳等向けが約96%となっている。

一方、乳製品向けの数量は非常に少なく、うちクリーム向けが約61%を占めている。

◎生乳の用途別処理量（北陸）　（単位：ｔ、%）

区　分	平成２０年	３０年	令和２年	３年	４年	（全国）
生産量計	122,637（ 95.4）	79,301（ 95.2）	74,968（ 99.5）	75,345（ 100.5）	68,687（ 91.2）	7,020,019
処理量計	121,796（ 98.7）	97,657（ 97.3）	87,740（ 94.7）	90,958（ 103.7）	83,430（ 91.7）	7,020,019
牛乳等向け	117,881（ 98.7）	94,812（ 97.3）	84,760（ 94.6）	88,084（ 103.9）	80,256（ 91.1）	3,670,064
乳製品向け	3,026（ 103.2）	2,223（ 94.6）	2,407（ 96.6）	2,447（ 101.7）	2,519（ 102.9）	3,307,361
うちﾁｰｽﾞ向け	35（ 116.7）	74（ 115.6）	68（ 87.2）	70（ 102.9）	69（ 98.6）	434,066
うちｸﾘｰﾑ向け	1,910（ 102.0）	1,470（ 114.3）	1,557（ 104.6）	1,577（ 101.3）	1,532（ 97.1）	667,340
その他	889（ 89.2）	622（ 111.5）	573（ 96.3）	427（ 74.5）	655（ 153.4）	42,594

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」
注：（　）内は対前年比。H30年は対H20年比

６　牛乳等の生産量

北陸では、牛乳生産量に占める学校給食用の割合が約17%と高い。

◎牛乳等生産量（北陸）　（単位：kℓ、%）

区　分	平成２０年	３０年	令和２年	３年	４年	（全国）
飲用牛乳等	108,839（ 98.2）	81,410（ 74.8）	73,612（ 95.4）	76,351（ 103.7）	75,361（ 98.7）	3,563,496
牛乳	100,336（ 99.2）	79,474（ 79.2）	71,504（ 95.1）	74,511（ 104.2）	73,771（ 99.0）	3,177,548
うち学校給食用	18,851（ 98.1）	13,716（ 72.8）	11,544（ 88.8）	12,877（ 111.5）	12,430（ 96.5）	342,821
加工乳・成分調整牛乳	8,503（ 88.2）	1,936（ 22.8）	2,108（ 108.0）	1,840（ 87.3）	1,590（ 86.4）	385,948
乳飲料	16,847（ 94.0）	14,949（ 88.7）	5,631（ 58.8）	5,509（ 97.8）	5,359（ 97.3）	1,042,690
はっ酵乳	10,406（ 84.6）	14,187（ 136.3）	14,609（ 100.0）	14,316（ 98.0）	14,664（ 102.4）	970,825
乳酸菌飲料	28,843（ 145.2）	17,483（ 60.6）	4,171（ 26.4）	0（ 0.0）	0（ － ）	103,815

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」
注：（　）内は対前年比。H30年は対H20年比

７　乳業工場数

北陸の乳業工場は、全国と比較して１日当たり生乳処理量が2ｔ未満の小規模の工場の割合が各県で半数以上を占めるなど高い状況。

◎乳業工場数（北陸）　（単位：工場）

区　分	平成２０年	３０年	令和２年	３年	４年
全　国	622（ 341）	571（ 283）	559（ 270）	546（ 270）	545（ 267）
北　陸	52（ 34）	36（ 20）	32（ 18）	29（ 16）	26（ 13）
新　潟	24（ 17）	15（ 8）	14（ 6）	14（ 7）	11（ 5）
富　山	17（ 12）	11（ 6）	10（ 6）	10（ 6）	9（ 5）
石　川	7（ 3）	8（ 4）	6（ 4）	4（ 2）	5（ 2）
福　井	4（ 2）	2（ 2）	2（ 2）	1（ 1）	1（ 1）

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」
注：（　）内は１日当たり生乳処理量が２t未満の工場

Ⅲ　肉用牛

１　肉用牛飼養戸数

北陸の肉用牛飼養戸数は、全国と同様に減少傾向で推移しており、令和５年は前年比0.9%減の325戸となった。全国に占めるシェアは0.8%である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約55%を占めている。

◎肉用牛飼養戸数　（単位：戸、%）

	平成２０年	令和２年	３年	４年	５年	
						戸数シェア
全　国	80,400（　97.7）	43,900（　54.6）	42,100（　95.9）	40,400（　96.0）	38,600（　95.5）	100
北　陸	579（　98.5）	343（　59.2）	340（　99.1）	328（　96.5）	325（　99.1）	0.8　[100.0]
新　潟	341（　97.7）	191（　56.0）	184（　96.3）	178（　96.7）	179（　100.6）	[55.1]
富　山	69（　101.5）	30（　43.5）	32（　106.7）	30（　93.8）	33（　110.0）	[10.2]
石　川	110（　104.8）	77（　70.0）	79（　102.6）	76（　96.2）	73（　96.1）	[22.5]
福　井	59（　89.4）	45（　76.3）	45（　100.0）	44（　97.8）	40（　90.9）	[12.3]

資料：農林水産省「畜産統計」
注１：（　）内は対前年比。令和２年は対平成20年比
注２：［　］内は北陸管内に占めるシェア

２　肉用牛飼養頭数

北陸の肉用牛飼養頭数は、全国と同様に増加傾向で推移しており、令和５年は前年比1.4%増の21,100頭となった。全国に占めるシェアは0.8%である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約56%を占めているが、１戸当たりの飼養頭数は富山県が約114頭と最も多く、全国の平均を大きく上回っている。

◎肉用牛飼養頭数　（単位：頭、%）

	平成２０年	令和２年	３年	４年	５年		
						頭数シェア	頭／戸
全　国	2,890,000（　103.0）	2,555,000（　88.4）	2,604,000（　101.9）	2,614,000（　100.4）	2,687,000（　102.8）	100	69.6
北　陸	24,300（　97.7）	21,700（　89.3）	21,100（　97.2）	20,800（　98.6）	21,100（　101.4）	0.8　[100.0]	64.9
新　潟	12,400（　95.4）	12,600（　101.6）	11,500（　91.3）	11,300（　98.3）	11,700（　103.5）	[55.5]	65.4
富　山	4,640（　104.3）	3,560（　76.7）	3,600（　101.1）	3,690（　102.5）	3,770（　102.2）	[17.9]	114.2
石　川	3,390（　98.0）	3,400（　100.3）	3,850（　113.2）	3,680（　95.6）	3,670（　99.7）	[17.4]	50.3
福　井	3,910（　97.5）	2,140（　54.7）	2,170（　101.4）	2,110（　97.2）	1,980（　93.8）	[9.4]	49.5

資料：農林水産省「畜産統計」
注１：（　）内は対前年比。令和２年は対平成20年比
注２：［　］内は北陸管内に占めるシェア

３　子取り用めす牛飼養頭数

北陸の子取り用めす牛飼養頭数は、全国では増加傾向にあるものの減少に転じ、令和５年は前年比0.3%減の3,150頭となった。全国に占めるシェアは0.5%である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約48%を占めているが、１戸当たりの飼養頭数は富山県が約24頭と最も多く、全国の平均を上回っている。

◎子取り用めす牛飼養頭数　（単位：頭、%）

	平成２０年	令和２年	３年	４年	５年		
						頭数シェア	頭／戸
全　国	667,300（　104.9）	622,000（　93.2）	632,800（　101.7）	636,800（　100.6）	645,200（　101.3）	100	16.7
北　陸	3,090（　104.0）	2,920（　94.5）	3,020（　103.4）	3,160（　104.6）	3,150（　99.7）	0.5　[100.0]	9.7
新　潟	1,430（　100.7）	1,380（　96.5）	1,430（　103.6）	1,520（　106.3）	1,520（　100.0）	[48.3]	8.5
富　山	680（　117.2）	740（　108.8）	760（　102.7）	800（　105.3）	800（　100.0）	[25.4]	24.2
石　川	590（　100.0）	540（　91.5）	580（　107.4）	590（　101.7）	600（　101.7）	[19.0]	8.2
福　井	390（　102.6）	250（　64.1）	260（　104.0）	250（　96.2）	230（　92.0）	[7.3]	5.8

資料：農林水産省「畜産統計」
注１：（　）内は対前年比。令和２年は対平成20年比
注２：［　］内は北陸管内に占めるシェア

４　肉用種肥育牛飼養頭数

北陸の肉専用種肥育牛飼養頭数は、全国と同様に増加傾向で推移しており、令和５年は前年比3.1%増の7,900頭となった。全国に占めるシェアは１％である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約44%を占めている。

◎肉用種肥育牛飼養頭数　（単位：頭、%）

	平成２０年	令和２年	３年	４年	５年	頭数シェア
全　国	770,100（ 104.5）	784,600（ 101.9）	799,499（ 101.9）	798,300（ 99.9）	830,500（ 104.0）	100
北　陸	6,330（ 102.9）	7,230（ 114.2）	7,590（ 105.0）	7,660（ 100.9）	7,900（ 103.1）	1.0 [100.0]
新　潟	2,640（ 102.7）	3,160（ 119.7）	3,130（ 99.1）	3,210（ 102.6）	3,460（ 107.8）	[43.8]
富　山	1,390（ 113.0）	1,250（ 89.9）	1,190（ 95.2）	1,210（ 101.7）	1,290（ 106.6）	[16.3]
石　川	1,070（ 105.9）	1,910（ 178.5）	2,300（ 120.4）	2,250（ 97.8）	2,180（ 96.9）	[27.6]
福　井	1,230（ 91.8）	910（ 74.0）	970（ 106.6）	990（ 102.1）	970（ 98.0）	[12.3]

資料：農林水産省「畜産統計」
注１：（　）内は対前年比。令和２年は対平成20年比
注２：［　］内は北陸管内に占めるシェア

５　乳用種肥育牛飼養頭数

北陸の乳用種肥育牛飼養頭数は、全国では増加しているが、減少傾向で推移しており、令和５年は前年比0.7%減の8,100頭となった。全国に占めるシェアは１％である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約72%を占めている。

◎乳用種肥育牛飼養頭数　（単位：頭、%）

	平成２０年	令和２年	３年	４年	５年	頭数シェア
全　国	1,067,000（ 100.3）	763,400（ 71.5）	775,800（ 101.6）	802,200（ 103.4）	804,400（ 100.3）	100
北　陸	13,500（ 93.0）	9,740（ 72.1）	8,620（ 88.5）	8,160（ 94.7）	8,100（ 99.3）	1.0 [100.0]
新　潟	7,510（ 91.6）	7,260（ 96.7）	6,160（ 84.8）	5,820（ 94.5）	5,860（ 100.7）	[72.3]
富　山	2,460（ 96.9）	1,260（ 51.2）	1,350（ 107.1）	1,360（ 100.7）	1,330（ 97.8）	[16.4]
石　川	1,460（ 90.1）	450（ 30.8）	390（ 86.7）	330（ 84.6）	330（ 100.0）	[4.1]
福　井	2,090（ 95.9）	780（ 37.3）	730（ 93.6）	650（ 89.0）	570（ 87.7）	[7.0]

資料：農林水産省「畜産統計」
注１：（　）内は対前年比。令和２年は対平成20年比
注２：［　］内は北陸管内に占めるシェア

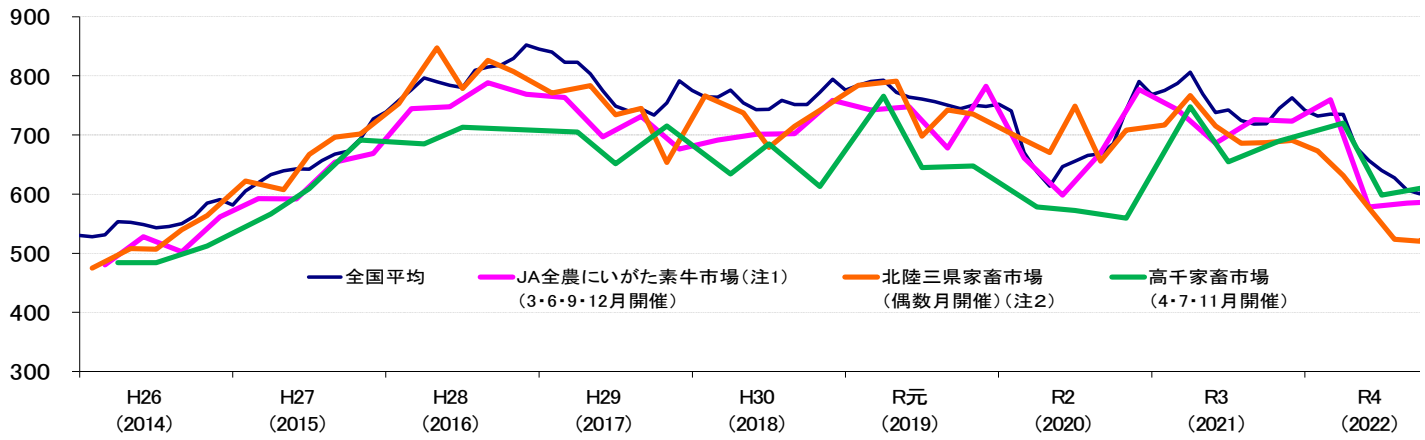
６　肉用子牛価格の推移
（黒毛和種）

北陸管内において定期的に黒毛和種の子牛取引を行っている家畜市場は３カ所あり、取引頭数の約８割をＪＡ全農にいがた素牛市場（新潟県長岡市）と北陸三県家畜市場(石川県金沢市）で占めている。

黒毛和種の子牛価格は、令和２年以降、新型コロナウイルス感染症の影響による枝肉価格の低下に伴い低下し、その後回復したが、飼料価格高騰等の影響で、再び低下している。

◎肉用子牛価格の推移（黒毛和種・税込）

単位：千円／頭



資料：JA等公表資料、ALIC肉用子牛取引情報、県調べ
注１：2018年6月までは上越家畜市場での価格（2018年9月に移転・名称変更）
注２：2020年度までは、2・5・7・9・11月の年5回開催。

７　と畜頭数

北陸のと畜頭数は減少傾向で推移している。令和４年は石川県で5.5%増の5,957頭となり、北陸全体で、2.4%増の8,966頭となっている。全国に占めるシェアは0.8%である。

なお、福井県は平成４年にと畜場を廃止している。

◎と畜頭数　（単位：頭、%）

区　分	平成２０年	３０年	令和２年	３年	４年
全　国	1,237,675 （ 102.5 ）	1,056,246 （ 85.3 ）	1,051,749 （ 100.8 ）	1,055,597 （ 100.4 ）	1,087,545 （ 103.0 ）
北　陸	15,911 （ 96.2 ）	8,957 （ 56.3 ）	8,944 （ 102.1 ）	8,756 （ 97.9 ）	8,966 （ 102.4 ）
新　潟	3,835 （ 100.7 ）	1,951 （ 50.9 ）	1,847 （ 95.7 ）	1,840 （ 99.6 ）	1,894 （ 102.9 ）
富　山	2,215 （ 98.4 ）	1,365 （ 61.6 ）	1,257 （ 96.9 ）	1,270 （ 101.0 ）	1,115 （ 87.8 ）
石　川	9,861 （ 94.2 ）	5,641 （ 57.2 ）	5,840 （ 105.5 ）	5,646 （ 96.7 ）	5,957 （ 105.5 ）
福　井	－ （ － ）	－ （ － ）	－ （ － ）	－ （ － ）	－ （ － ）

資料：農林水産省「畜産物流通統計」
注１：頭数は成牛頭数+子牛頭数。
注２：（　）内は対前年比。平成30年は対平成20年比

Ⅳ　豚

１　豚飼養戸数

北陸の飼養戸数は、全国と同様に減少傾向で推移しており、令和５年は前年比10.7%減の108戸となった。全国に占めるシェアは3.2%である。

県別では、新潟県が最も多く管内の75%を占めている。

◎豚飼養戸数　（単位：戸、%）

	平成２０年	令和元年	３年	４年	５年	戸数シェア
全　国	7,230（ 95.8）	4,320（ 59.8）	3,850（ 89.1）	3,590（ 93.2）	3,370（ 93.9）	100
北　陸	253（ 97.3）	155（ 61.3）	127（ 81.9）	121（ 95.3）	108（ 89.3）	3.2 ［100.0］
新　潟	191（ 97.4）	111（ 58.1）	98（ 88.3）	92（ 93.9）	81（ 88.0）	［75.0］
富　山	30（100.0）	21（ 70.0）	14（ 66.7）	14（100.0）	13（ 92.9）	［12.0］
石　川	23（ 92.0）	16（ 69.6）	12（ 75.0）	12（100.0）	11（ 91.7）	［10.2］
福　井	9（100.0）	7（ 77.8）	3（ 42.9）	3（100.0）	3（100.0）	［2.8］

資料：農林水産省「畜産統計」
注１：（　）は対前年比。平成29年は対平成28年比（令和2年はセンサス実施年のため調査休止）
注２：［　］内は北陸管内に占めるシェア

２　豚飼養頭数

北陸の豚飼養頭数は、全国では増加に転じたものの、令和５年は前年比3.6%減の200,900頭となった。全国に占めるシェアは2.2%である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約79%を占めている。

◎豚飼養頭数　（単位：頭、%）

	平成２０年	令和元年	３年	４年	５年	頭数シェア	頭／戸
全　国	9,745,000（ 99.9）	9,156,000（ 94.0）	9,290,000（101.5）	8,949,000（ 96.3）	8,956,000（100.1）	100	2,658
北　陸	294,900（ 96.9）	235,600（ 79.9）	226,800（ 96.3）	208,500（ 91.9）	200,900（ 96.4）	2.2 ［100.0］	1,860
新　潟	212,600（ 96.2）	180,600（ 84.9）	182,100（100.8）	166,800（ 91.6）	157,900（ 94.7）	［78.6］	1,949
富　山	39,500（ 97.5）	31,200（ 79.0）	23,300（ 74.7）	22,200（ 95.3）	23,500（105.9）	［11.7］	1,808
石　川	37,800（ 99.0）	21,300（ 56.3）	20,100（ 94.4）	18,200（ 90.5）	17,800（ 97.8）	［8.9］	1,618
福　井	5,020（105.7）	2,440（ 48.6）	1,410（ 57.8）	1,290（ 91.5）	1,710（132.6）	［.9］	570

資料：農林水産省「畜産統計」
注１：（　）は対前年比。令和元年は対平成20年比（令和2年はセンサス実施年のため調査休止）
注２：［　］内は北陸管内に占めるシェア

３　子取り用めす豚飼養頭数

北陸の子取り用めす豚飼養頭数は、令和５年は前年比2.3%増の17,700頭となった。全国に占めるシェアは2.2%である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約81%を占めており、１戸当たりの飼養頭数も約223頭と最も多い。

◎子取り用めす豚飼養頭数　（単位：頭、%）

	平成２０年	令和元年	令和３年	令和４年	５年		
						頭数シェア	頭／戸
全　国	910,100（ 99.5 ）	853,100（ 93.7 ）	823,200（ 96.5 ）	789,100（ 95.9 ）	791,800（ 100.3 ）	100	299.9
北　陸	27,300（ 99.8 ）	20,100（ 73.6 ）	19,200（ 95.5 ）	17,300（ 90.1 ）	17,700（ 102.3 ）	2.2 ［100.0］	213.3
新　潟	19,700（ 99.5 ）	15,300（ 77.7 ）	15,300（ 100.0 ）	13,900（ 90.8 ）	14,300（ 102.9 ）	［80.8］	223.4
富　山	3,560（ 100.6 ）	2,540（ 71.3 ）	1,880（ 74.0 ）	1,550（ 82.4 ）	1,470（ 94.8 ）	［8.3］	210.0
石　川	3,560（ 100.6 ）	2,020（ 56.7 ）	1,970（ 97.5 ）	1,710（ 86.8 ）	1,720（ 100.6 ）	［9.7］	172.0
福　井	450（ 102.3 ）	240（ 53.3 ）	x （ #VALUE! ）	x（ － ）	x（ － ）	x	x

資料：農林水産省「畜産統計」
注１：（　）は対前年比。令和元年は対平成20年比（令和2年はセンサス実施年のため調査休止）
注２：［　］内は北陸管内に占めるシェア
注３：「頭／戸」は子取り用めす豚のいる農家１戸当たりの飼養頭数
注４：「ｘ」は個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するための、統計数値を公表しないもの

４　と畜頭数

令和４年の北陸のと畜頭数は、前年比0.3%減の549,656頭となった。全国に占めるシェアは3.3%である。

◎と畜頭数　（単位：頭、%）

	平成２０年	３０年	令和元年	３年	４年	頭数シェア
全　国	16,192,079（ 99.5 ）	16,430,088（ 101.5 ）	16,319,598（ 99.3 ）	16,837,870（ 100.9 ）	16,577,133（ 98.5 ）	100
北　陸	572,172（ 101.4 ）	563,169（ 98.4 ）	557,074（ 98.9 ）	551,319（ 100.5 ）	549,656（ 99.7 ）	3.3 ［100.0］
新　潟	407,132（ 101.3 ）	418,176（ 102.7 ）	413,516（ 98.9 ）	428,834（ 99.9 ）	427,242（ 99.6 ）	［77.7］
富　山	109,005（ 102.1 ）	99,612（ 91.4 ）	102,512（ 102.9 ）	86,773（ 104.1 ）	88,873（ 102.4 ）	［16.2］
石　川	56,035（ 100.5 ）	45,381（ 81.0 ）	41,046（ 90.4 ）	35,712（ 99.1 ）	33,541（ 93.9 ）	［6.1］
福　井	－（ － ）	－（ － ）	－（ － ）	－（ － ）	－（ － ）	-

資料：農林水産省「畜産物流通統計」
注　：（　）は対前年比。平成30年は対平成20年比（令和2年はセンサス実施年のため調査休止）

Ⅴ　採卵鶏

１　採卵鶏飼養戸数

北陸の飼養戸数は、全国と同様に減少傾向で推移しており、令和５年は7.8%減の71戸となった。全国に占めるシェアは4.2%である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約49%を占めている。

◎採卵鶏飼養戸数　（単位：戸、%）

	平成２０年	令和元年	３年	４年	５年	戸数シェア
全　国	3,300（ 95.4）	2,120（ 64.2）	1,880（ 88.7）	1,810（ 96.3）	1,690（ 93.4）	100
北　陸	123（ 90.4）	84（ 68.3）	77（ 91.7）	77（ 100.0）	71（ 92.2）	4.2 [100.0]
新　潟	51（ 92.7）	42（ 82.4）	38（ 90.5）	37（ 97.4）	35（ 94.6）	[49.3]
富　山	21（ 87.5）	17（ 81.0）	17（ 100.0）	17（ 100.0）	15（ 88.2）	[21.1]
石　川	31（ 96.9）	14（ 45.2）	13（ 92.9）	11（ 84.6）	9（ 81.8）	[12.7]
福　井	20（ 80.0）	11（ 55.0）	9（ 81.8）	12（ 133.3）	12（ 100.0）	[16.9]

資料：農林水産省「畜産統計」
注１：「種鶏」のみの飼養者を除く
注２：（　）は対前年比。令和元年は対平成20年比（令和2年はセンサス実施年のため調査休止）
注３：［　］内は北陸管内に占めるシェア

２　採卵鶏飼養羽数

北陸の飼養羽数は、全国と同様に減少傾向で推移しており、令和５年は前年比13.1%減の587万１千羽となった。全国に占めるシェアは4.6%である。

県別では、新潟県が最も多く管内の約56%を占めている。

北陸の１戸当たりの飼養羽数は、全国平均より約５万５千羽多い約８万３千羽であり、石川県は約12万７千羽と全国平均を大幅に上回っている。

◎採卵鶏飼養羽数　（単位：千羽、%）

	平成２０年	令和元年	３年	４年	５年	羽数シェア	千羽/戸
全　国	142,523（ 99.8）	141,792（ 99.5）	140,697（ 99.2）	137,291（ 97.6）	128,579（ 93.7）	100	76.1
北　陸	7,847（ 102.3）	7,512（ 95.7）	7,813（ 104.0）	6,755（ 86.5）	5,871（ 86.9）	4.6 [100.0]	82.7
新　潟	5,039（ 106.3）	5,065（ 100.5）	5,279（ 104.2）	4,268（ 80.8）	3,296（ 77.2）	[56.1]	94.2
富　山	1,106（ 83.5）	953（ 86.2）	825（ 86.6）	736（ 89.2）	707（ 96.1）	[12.0]	47.1
石　川	1,258（ 113.8）	810（ 64.4）	1,046（ 129.1）	987（ 94.4）	1,146（ 116.1）	[19.5]	127.3
福　井	444（ 88.1）	684（ 154.1）	663（ 96.9）	764（ 115.2）	722（ 94.5）	[12.3]	60.2

資料：農林水産省「畜産統計」
注１：羽数は「種鶏」及び「ひな（６か月未満）」を除く「成鶏めす（６か月以上）」の羽数
注２：（　）は対前年比。令和元年は対平成20年比（令和2年はセンサス実施年のため調査休止）
注３：［　］内は北陸管内に占めるシェア

３　鶏卵生産量

北陸の鶏卵生産量は、前年に比べ5.5%増加した。

令和４年は、富山県が前年比81.1%に減少したものの、他の県の生産量が増加したため、北陸の鶏卵生産量は、前年に比べ5.5%増加した。

◎鶏卵生産量　（単位：ｔ、%）

	平成２０年	３０年	令和元年	３年	４年
全　国	2,553,557（ 98.8）	2,627,764（ 102.9）	2,639,733（ 100.5）	2,574,255（ 97.8）	2,596,725（ 100.9）
北　陸	150,785（ 97.5）	141,088（ 93.6）	140,036（ 99.3）	129,976（ 90.7）	137,151（ 105.5）
新　潟	98,017（ 98.4）	90,290（ 92.1）	87,422（ 96.8）	82,103（ 88.0）	89,311（ 108.8）
富　山	22,060（ 95.0）	20,031（ 90.8）	19,708（ 98.4）	16,225（ 92.8）	13,163（ 81.1）
石　川	22,983（ 99.2）	17,852（ 77.7）	19,375（ 108.5）	18,314（ 96.1）	19,643（ 107.3）
福　井	7,725（ 89.6）	12,915（ 167.2）	13,531（ 104.8）	13,334（ 98.7）	15,034（ 112.7）

資料：農林水産省「畜産物流通統計」
注　：（　）内は対前年比。平成30年は対平成20年比（令和2年はセンサス実施年のため調査休止）

Ⅵ　ブロイラー

１　ブロイラー飼養戸数

北陸の飼養戸数は、令和５年は増加に転じ、前年比18.2%増の13戸であった。全国に占めるシェアは0.6%である。

県別では、新潟県が管内の約77%を占めている。

◎ブロイラー飼養戸数　（単位：戸、%）

	平成２０年	令和元年	３年	４年	５年	戸数シェア
全　国	2,456（ 95.1）	2,250（ 97.9）	2,160（ 96.0）	2,100（ 97.2）	2,100（ 100.0）	100
北　陸	20（ 90.9）	13（ 87.5）	13（ 100.0）	11（ 84.6）	13（ 118.2）	0.6 ［100.0］
新　潟	14（ 107.7）	10（ 84.6）	10（ 100.0）	9（ 90.0）	10（ 111.1）	［76.9］
富　山	2（ 50.0）	－（ － ）	－（ － ）	－（ － ）	－（ － ）	－
石　川	1（ 100.0）	－（ － ）	－（ － ）	－（ － ）	－（ － ）	－
福　井	3（ 75.0）	3（ 100.0）	3（ 100.0）	2（ 66.7）	3（ 150.0）	［23.1］

資料：農林水産省「畜産物流通統計」（平成21年まで）、「畜産統計」（平成25年～）
注１：（　）は対前年比。令和元年は対平成20年比（令和2年はセンサス実施年のため調査休止）
注２：表中の「－」は事実のないもの
注３：［　］内は北陸管内に占めるシェア

２　ブロイラー飼養羽数

北陸の飼養羽数は、全国と同様に増加し、令和５年は前年比9.1%増の135万２千羽となった。全国に占めるシェアは１%である。

◎ブロイラー飼養羽数　（単位：千羽、%）

	平成２０年	令和元年	３年	４年	５年	羽数シェア	千羽/戸
全　国	102,987（ 97.8）	138,228（ 100.4）	139,658（ 101.0）	139,230（ 99.7）	141,463（ 101.6）	100	67.4
北　陸	706（ 101.7）	977（ 90.2）	946（ 96.8）	1,239（ 131.0）	1,352（ 109.1）	1.0 ［100.0］	104.0
新　潟	615（ 112.8）	901（ 92.9）	882（ 97.9）	x（ x）	1,254（ － ）	［92.8］	125.4
富　山	x（ x）	－（ － ）	－（ － ）	－（ － ）	－（ － ）	－	－
石　川	x（ x）	－（ － ）	－（ － ）	－（ － ）	－（ － ）	－	－
福　井	64（ 53.3）	76（ － ）	64（ － ）	x（ － ）	98（ － ）	［7.2］	32.7

資料：農林水産省「畜産物流通統計」（平成21年まで）、「畜産統計」（平成25年～）
注１：（　）は対前年比。令和元年は対平成20年比（令和2年はセンサス実施年のため調査休止）
注２：表中の「ｘ」は公表のないもの、「－」は事実のないもの、「nc」は計算不能なもの
注３：［　］内は北陸管内に占めるシェア

３　出荷羽数

北陸の出荷羽数は、全国と同様に増加傾向で推移しており、令和５年は前年比6.0%増の725万７千羽となった。

◎出荷羽数　（単位：千羽、%）

	平成２０年	令和元年	３年	４年	５年	羽数シェア	千羽/戸
全　国	629,766（ 101.1）	695,335（ 101.5）	713,834（ 102.7）	719,259（ 100.8）	720,878（ 100.2）	100	340.0
北　陸	4,443（ 91.3）	5,056（ 104.9）	5,300（ 104.8）	6,845（ 129.2）	7,257（ 106.0）	1.0 ［100.0］	558.2
新　潟	4,094（ 94.7）	4,736（ 105.5）	4,982（ 105.2）	x（ x）	6,871（ － ）	x ［94.7］	687.1
富　山	x（ x）	－（ － ）	－（ － ）	－（ － ）	－（ － ）	－	－
石　川	x（ x）	－（ － ）	－（ － ）	－（ － ）	－（ － ）	－	－
福　井	349（ 64.7）	320（ 100.7）	318（ 99.4）	x（ x）	386（ － ）	x ［5.3］	128.7

資料：農林水産省「畜産物流通統計」（平成26年まで）、「畜産統計」（平成27年～）
注１：（　）は対前年比。令和元年は対平成20年比（令和2年はセンサス実施年のため調査休止）
注２：平成26年までは年次（1～12月）、平成27年以降は、2月2日から翌年2月1日までの1年間に出荷した羽数
注３：表中の「x」は公表のないもの、「－」は事実のないもの
注４：［　］内は北陸管内に占めるシェア

Ⅶ　飼料作物

1　飼料作物作付面積

（１）飼料作物作付面積の推移

全国の飼料作物作付面積は平成28年までは増加傾向で推移。令和4年度は飼料用米の作付面積増等により前年比約2.5％増加している。北陸地域においては、令和2年度の作付面積は全国比で約1％となっている。

※ 令和元年、令和3年、令和4年は抽出調査のため北陸のデータなし

◎飼料作物作付面積　（単位：ha、％）

	平成20年	29年	令和元年	2年	3年	4年
全国（A）	901,500	985,100	961,600	955,700	1,001,000	1,026,000
北陸（B）	4,640	11,900		9,190		
(B)/(A)	0.51	1.21		0.96		
うち牧草	3,830	3,160		2,810		
青刈りトウモロコシ	255	246		184		

資料：農林水産省「作物統計」

（２）牧草作付面積

全国の牧草作付面積は減少傾向で推移しており、北陸地域においても同様に減少傾向で推移している。

※ 令和元年、令和3年、令和4年は抽出調査のため北陸のデータなし

◎牧草作付面積　（単位：ha）

	平成20年	29年	令和元年	2年	3年	4年
全　国	769,000	728,300	724,400	719,200	717,600	711,400
北　陸	3,830	3,160		2,810		
新　潟	1,880	1,430		1,120		
富　山	737	592		572		
石　川	733	719		715		
福　井	474	415		403		

資料：農林水産省「作物統計」

（３）青刈りとうもろこし作付面積

全国の青刈りとうもろこし作付面積は、近年増加傾向で推移しているが、北陸地域においては平成29年から約25％減少している。

※ 令和元年、令和3年、令和4年は抽出調査のため北陸のデータなし

◎青刈りとうもろこし作付面積　（単位：ha）

	平成20年	29年	令和元年	2年	3年	4年
全　国	90,800	94,800	94,700	95,200	95,500	96,300
北　陸	255	246		184		
新　潟	187	174		159		
富　山	21	8		10		
石　川	33	46		9		
福　井	14	18		6		

資料：農林水産省「作物統計」

（４）稲発酵粗飼料作付面積

稲発酵粗飼料は、稲作農家にとっては作りやすく、また畜産農家にとっては飼料価値の高い飼料作物として全国的に増加しており、全国の令和5年の作付面積は平成20年の約5.8倍となった。

北陸においても、水田利活用の推進から増加傾向にあり、令和5年は前年比約6%増の1,300haとなった。全国に占めるシェアは約2.5%である。

県別では、新潟県と富山県の作付面積が多く、両県で管内の約78%を占めている。

◎稲発酵粗飼料作付面積　（単位:ha）

	平成20年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
全　国	9,089	42,545	42,450	42,791	44,248	48,404	53,055
北　陸	306	980	1,001	1,018	1,049	1,120	1,300
新　潟	239	386	383	370	400	433	533
富　山	27	405	432	449	453	457	480
石　川	1	87	93	92	99	109	127
福　井	39	102	93	107	97	121	160

資料：農林水産省調べ
注　：平成25年以降の数値は新規需要米の取組計画認定状況による。

（５）飼料用米作付面積と生産量

飼料用米は、主食用米とほぼ同じ栽培体系で取り組みやすいことや農機具の新規投資は不要であること等から全国的に生産･利用が拡大。全国の令和5年の作付面積は前年比約6%減の133,925haとなった。

北陸の令和5年の作付面積も全国と同様に前年比約13%減の9,235haとなり、全国に占めるシェアは約6.9%となっている。

県別では、新潟県が4,032haと最も多く管内の約44%を占めており、生産量についても新潟県が22,012ｔと管内の約44%を占めている。

◎飼料用米作付面積　（単位：ha）

	平成20年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
全　国	1,410	79,535	72,509	70,883	115,744	142,055	133,925
北　陸	30	5,999	5,256	4,794	8,599	10,572	9,235
新　潟	10	2,908	2,213	1,876	3,768	4,578	4032
富　山	18	1,229	1,301	1,297	1,952	2,149	2096
石　川	0	645	579	548	1,389	1,767	1131
福　井	2	1,217	1,163	1,073	1,490	2,078	1976

◎飼料用米生産量　（単位：t）

	平成30年	令和3年	4年	5年
全　国	420,667	619,024	761,429	717,566
北　陸	32,011	46,116	56,673	49,547
新　潟	15,795	20,491	24,916	22,012
富　山	6,662	10,664	11,785	11,521
石　川	3,260	7,251	9,205	5,825
福　井	6,294	7,710	10,767	10,189

資料：農林水産省調べ
注　：平成25年以降の数値は新規需要米の取組計画認定状況による。

２　公共牧場の概要

（１）公共牧場の現状

令和４年度の全国の公共牧場数は682場となっており、うち北陸管内は17場で草地利用面積は809haとなっている。

◎公共牧場の草地面積（令和４年度）　（単位：ha、％）

	牧場数	公共牧場の草地利用面積	
全　国	682	71,517	(100.0)
北海道	184	43,964	(61.5)
都府県	498	27,553	(38.5)
東　北	222	15,691	(21.9)
関　東	60	3,367	(4.7)
北　陸	17	809	(1.1)
東　海	21	1,160	(1.6)
近　畿	4	94	(0.1)
中四国	49	2,426	(3.4)
九　州	124	3,969	(5.5)
沖　縄	1	38	(0.1)

資料：公共牧場経営等実態調査（（一社）日本草地畜産種子協会）

※　ラウンドの関係で計が合わない場合がある。

（２）北陸管内の公共牧場の概要

令和４年度の利用頭数は、前年度に比べ159頭増加し、牧場数は17であり、１牧場当たりの平均頭数は３頭増の120頭となっている。

県別では、新潟県が管内の草地面積で最も大きく約49％を占めているが、利用頭数は富山県が最も多く約36％を占めている。

◎北陸管内の公共牧場の概要（令和３・４年度）　（単位：ha、頭）

	年度	牧場数	牧場総面積	草地面積			利用頭数（7.1時点）		
				牧草地	野草地他	計	乳用牛	肉用牛	計
新潟県	R3	8	671	383	38	421	170	125	295
	R4	9	776	487	34	521	224	206	430
富山県	R3	3	231	165	29	194	289	442	731
	R4	3	231	168	25	193	285	451	736
石川県	R3	2	148	92	0	92	496	20	516
	R4	2	143	92	0	92	498	29	527
福井県	R3	3	345	195	70	265	222	114	336
	R4	3	345	195	70	265	232	112	344
北陸計	R3	16	1,395	835	137	972	1,177	701	1,878
	R4	17	1,495	942	129	1,071	1,239	798	2,037
１牧場当たり	R3		87	52	9	61	74	44	117
	R4		88	55	8	63	73	47	120

資料：公共牧場経営等実態調査（（一社）日本草地畜産種子協会）

※　ラウンドの関係で計が合わない場合がある。

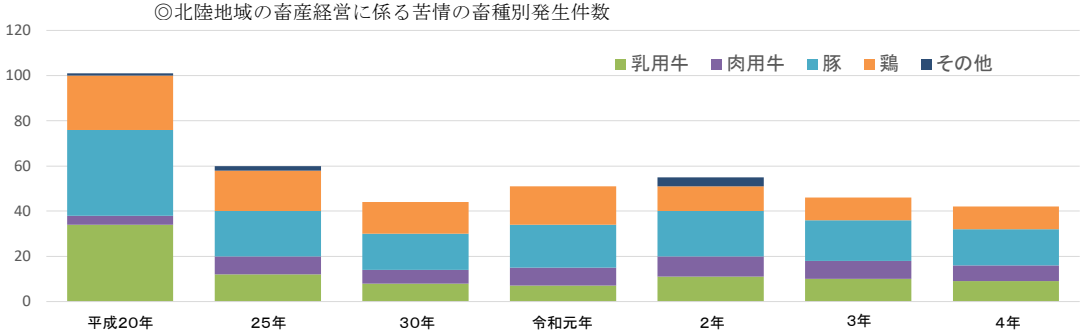
Ⅷ　畜産環境問題

１　畜産経営に起因する苦情発生状況

北陸における苦情発生件数は、昭和50年前半には年間600件程度あったが「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律(平成11年)」の施行による管理の適正化や農家戸数の減少もあり減少傾向で推移していたが、近年は飼養規模の拡大から増加傾向に転じている。令和４年の苦情発生件数は42件となっており全国に占めるシェアは2.9%程度である。

畜種別の構成比をみると、豚の割合が高く、38.1%と最も多く、次いで鶏が23.8%、乳用牛が21.4%、肉用牛が16.7%となっている。

◎北陸地域の畜産経営に係る苦情の畜種別発生件数



（単位：件）

	平成２０年	２５年	３０年	令和元年	２年	３年	４年	対前年比	構成比
全　　国	2,433	1,970	1,480	1,491	1,386	1,446	1,442	99.7%	
北　　陸	101	60	44	51	55	46	42	91.3%	2.9%
乳　用　牛	34	12	8	7	11	10	9	90.0%	21.4%
肉　用　牛	4	8	6	8	9	8	7	87.5%	16.7%
豚	38	20	16	19	20	18	16	88.9%	38.1%
鶏	24	18	14	17	11	10	10	100.0%	23.8%
そ　の　他	1	2	0	0	4	0	0	0.0%	0.0%

資料：畜産局及び北陸農政局調べ
注１：調査時点は、各年とも７月１日現在で、それぞれ過去１年間における問題発生状況について把握したものである。
注２：この調査は、畜産経営が原因であるとして、市町村等に届けられた苦情について、都道府県が調査し、畜産局が取りまとめたものである。

２　畜産経営体数に対する苦情の畜種別発生率

北陸における畜種毎の畜産経営体数に占める苦情発生率は畜産農家戸数の減少割合等によって増減があったものの、近年は増頭、増羽による経営規模拡大から苦情発生率は増加傾向、令和４年においては5.7%となった。

畜種別にみると、中小家畜の発生率が高い傾向になっている。

◎畜産経営体数に対する苦情の畜種別発生率

（単位：%）

	平成２０	平成２５	平成３０	令和元	令和2	令和3	令和4
北　　陸	6.6	4.9	4.4	5.5	5.7	5.8	5.7
乳　用　牛	6.3	2.9	2.5	2.3	3.8	3.8	3.5
肉　用　牛	0.7	1.6	1.5	2.1	2.6	2.4	2.1
豚	15.0	10.3	9.8	12.3	12.9	14.2	13.2
鶏	16.8	15.3	13.5	17.5	10.6	10.2	11.4

資料：畜産局及び北陸農政局調べ
注 １：苦情発生率＝苦情発生戸数（件数）／農家戸数(各年の2月1日現在の戸数)
注 ２：農家戸数については、乳用牛、肉用牛、豚及び鶏のうち採卵鶏は畜産統計の農家戸数を使用
注 ３：鶏のうちブロイラーの農家戸数は平成20年までは畜産物流通統計（食鳥流通統計）を、平成25年以降は畜産統計の戸数を使用
注 ４：豚及び鶏(採卵鶏、ブロイラー)の農家戸数について、令和２年は農業センサス実施年のため畜産統計調査が行われていないことから前年の戸数を使用

３　畜産経営に係る苦情の発生原因別発生状況

北陸における苦情の発生原因は、全国と同様に悪臭発生関連が最も多く、令和４年は32件となっており、次いで水質汚濁関連４件の順となっている。

◎畜産経営に係る苦情の発生原因別発生状況

（単位：件）

	平成２０		平成２５		平成３０		令和元		令和2		令和3		令和4	
	全国	北陸	全国	北陸	全国	北陸	全国	北陸	全国	北陸	全国	北陸	全国	北陸
総計	2,433	101	1,970	60	1,480	44	1,491	51	1,386	55	1,446	46	1,442	42
水質汚濁関連	700	16	482	11	389	4	359	8	335	7	320	5	324	4
悪臭発生関連	1,479	82	1,316	48	938	40	908	45	842	41	924	41	940	32
害虫発生関連	154	12	99	6	215	7	230	1	168	0	194	1	194	0
その他	339	0	259	1	214	2	242	2	267	4	266	2	281	6

資料：畜産局及び北陸農政局調べ
注 １：発生原因は、複数の原因が併発しているものも含むため総数とは一致しない。
注 ２：その他は、ふん尿の流出、騒音等である。